

GOAT BULLETIN



Laboratory of Animal Husbandry Resources

第8号【新春号】

平成19年1月発行

昨年の総括と今年の抱負

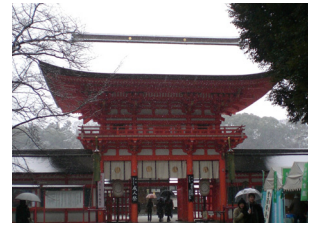


【廣岡先生】

私が本研究室に着任して、昨年10月で丸5年を向かえました。その間を振り返ると本当に悪戦苦闘の連続でしたが、昨今優秀でしっかりした学生にめぐまれ、何とかここまでできたという感じです。昨年4月に助教授として熊谷先生を向かえることができ、本格的な動物実験が始まりました。学生諸君にとっては、ほとんどが初めての経験で、戸惑うことも多かったと思いますが、実際に家畜を飼育し、また実験することは、今後必ず役に立つと思います。家畜を飼育している大学、研究室が減少する中、動物実験に関する知識と技術、経験を持つ諸君は、必ず評価されると思います。特に、畜産分野で職を得ようとする諸君には、貴重な経験、体験となり、就職の際には必ず有利に働くと感じています。総括すれば、昨年は、研究室の土台作りの最終段階であったように思います。

さて、本年1月1日付で、大石君(先生)が、助手として任用されることとなり、研究室はますます充実することになりました。これまではスタッフが欠けていたこともあり、学生諸君にはいろいろと迷惑をかけましたが、これで何とかやっと「普通」の研究室となりました。今後は、みんなで力を合せて、畜産業や社会に貢献できればと願っています。

研究室の方向性としては、畜産資源の創設時からの伝統を引き継いで、学生諸君が個々に大きなテーマを持ち、それぞれが独立して一流になるような研究室にできればと思っています。考え方、目的は多少異なっても、お互いに相手の研究を尊重し、刺激し合って、能力を高め合えるような研究室になればと思います。複合(mixed)と融合(fusion)こそが、本研究室の特徴になればと思います。本研究室で学んだ諸君が将来、一流の研究者として世界にはばたいてくれることを心から望んでいます。



初雪が降りました(1月7日)

目次:

昨年の総評と今年の抱負【大石先生】 2

私と畜産資源学教室 2
(荻野さん投稿エッセイ)

研究紹介① 3

忘年会 3

レニンさんへ吉報届く 3

お知らせ 4

畑に冬野菜を植えましょう

年の瀬で研究室がてんやわんや師走、12月16日土曜日の昼下がり、某農場で、今年2回目の畑作業が行われました。参加者は畜産資源から熊谷先生・大石さん・長命さん・金島さん、生殖からは南先生・今市君と南先生のお子さん(次女:Yちゃん)でした~!

いざ、畑を見回してみると・・・Σ(「□」;)。

夏に畑を耕し、季節外れの種を乱発したものの、種と季節がマッチしなかったのか、種がヤワだったのか・・・理由は定かではないが、トマト以外、雑草ばかりが育っていた畑・・・(ToT)。

秋以降、人がほとんど踏み入ることのなかった畑・・・に不法投棄されたカンヤビン・・・どうしてここに棄てたのかわからないコンビニ弁当の容器・・・(ㄉ)ㄉ)ㄉ)ワッシャー。

みんなア然・ポー然としながら、とりあえず、草むしり、草むしり(→▽←)。

その後、再び「こまめ」登場

~!!! 雑草を刈り取る刈り取る・・・????。はずが、こまめが宙に浮く・・・ん?

南先生「おっっ~! これ刃逆やんか~!!!」

熊谷先生「えっ??」
大石さん「そりゃ宙に浮くわあ」
ということで、刃を取り替えて・・・再び作業開始!

その間、金島さんと大石さんは南先生のお子さんとタワムしてました・・・
(金島さんはいじられていたが・・・)。

・
(中略)
・

ということで、畑の耕し作業も無事終了~!!

一同「何とかなるもんやな~!!」

その後、「ほうれん草」・「にら」・「カモミール」・・・を二棟ほどに渡り植えました。

今度、熊谷先生が種か苗を買って来てくださるとのことです。

今度は時期もそれ程ズレていないので、美味しい野菜が収穫できることを期待!!

卒業するまでには、収穫できるかな~。

(文責:Y. C)



大石助手就任!

お正月明けの1月4日、研究室に来てみると、スーツ姿の大石さんが…洋「あれ? お出かけですか?」

大「あの、…実は本日付で、この研究室の助手になりました。よろしく願います」

洋「…??、え~々~っ!! おめでとございます!」
このニュースは、この日研究室を駆け巡り、同じような会話が何度も繰り返されました。4月に研究室の『顔』が3人も抜けちゃってどうなっちゃうんだろう…と不安に思っていた研究室一同みんな大喜び。これからも大石先生(!)よろしく願います。



昨年の総評と今年の抱負

【大石先生】

明けましておめでとうございます。昨年末まで当研究室に博士課程の学生として在籍し、この1月より当研究室助手に就任致しました、名実ともに新米助手の大石です。研究室の内外に対して名高いこのGoat Bulletin 2007年新春号に寄稿することができ、大変光栄に思います。

昨年は、自身にとっても研究室にとってもTurning Pointのような1年だったと思います。自身としては、詳細を省いて端的に言えば、人生について様々な考えを思い巡らし、悩み、変化に富んだ1年でした。一方、研究室では、昨春より熊谷先生がスタッフの一員となり、それとともに新しく研究室に所属した学生さんの多くが実験研究を行なうようになり、またヤギ(トン・ナン・シャー・ペー)も仲間となりました。熊谷先生が実験系を強力に引っ張る存在となったため、「コンピュータを用いた研究」と「実験研究」という研究室の2軸がより強固になったと感じています。さらに、やはり昨春に研究室に加入した最強のヤギ好きさんであるGoat Bulletin編集長の塚原ようこさんは、同じヤギ好きさんの仲間としてとても大きな存在となっただけでなく、実際の実験動物としてのヤギ飼養についてたくさんの情報提供と指導を行なってくれました。さすが自他共に認める400以上もの子供たちを育てた経験のある、ヤギのママさんです。数年前、自身がヤギの研究として何かをやりたいと初めて考えた時にはまったく想像もつかなかったほど、現在の研究室では多くの人がヤギに関わっており、「随

分と様変わりしたものだなあ」と喜ばしく思っています。今年、廣岡先生、熊谷先生、事務の上原さんに加え、自分自身が助手となったためスタッフも揃い、また昨年同様に多くの学生が所属しています。そのため、昨年は変化の年でしたが、今年は研究室のスタイルをより強く確立させる年であると思います。もちろん4月には幾らかの学生の出入りもあり、また変化もあるとは思いますが、昨年ほどの大変化では無いような気がします。このなかで、自身の役割としては、「コンピュータを用いた研究」と「実験研究」という2軸がしっかりと両立し、また、ただ分離してしまうのではなく互いを理解して上手く共存し、さらには有益な点を利用し合えるようにするために、文字通り「助」ける「手」となって両軸を両手でつなげることだろうと考えています。今年には現在試験中のヤギ4頭に加え、さらに新たな仲間が増頭されるので、ヤギ好きさんインタビュー第一弾で紹介された者としては、ヤギが「つなぎ」のほんの一要因となるのであれば言うことなしですね。もちろん他の家畜でも構いませんが(ウシも好きですよ)。とにかく、コンピュータ系と実験系のお互いが助けあい、また刺激あつて、国内外広くの畜産を対象として研究を行ない、研究室全体として成果を出し続けることを目標に、スタッフと学生が丸となって研究に打ち込む環境作りを目指したいと思います。みなさん、がんばって、かつ楽しんで研究しましょう。少し「しんどいな～」と思ったら、エサを食べるヤギたちの幸せな顔でも思い浮かべましょう。

『私と畜産資源学教室』～新春特別企画～

昨年末、当研究室から博士論文申請をされたOBの荻野氏より研修室の思い出とメッセージを載しました！

私と畜産資源学教室(以下、畜産資源)の付き合いが始まってもう2年半になる。国内留学という形で半年間滞在させてもらったのがその始まりだが、留学期間が終了して自分の研究所に戻ってからも何度か訪問させてもらっていて、また学会等でもメンバーとは会うことが多いので、そういった機会を通して現在も交流を続けている。

滞在中は、部屋で行う研究はもちろんのこと、温泉町の子牛市場見学、京都府畜産試験場の見学、研究の一環で稲刈りの手伝い、と自分の研究所ではなかなかできない体験をさせてもらった(ちなみに、この稲刈りの後では全身にじんましんが出るというこれまた自分の人生で初めての体験をした)。また研究以外でも、夜は研究室で食事を作り、その食事とお酒を友に遅くまで語り、さらに休日はいっしょに遊びに出かけ、と楽しい経験をさせてもらった。特に、お酒と料理については一家言持っているメンバーが多く、ここでもいろいろなことを学ばせてもらったように思う。これについて特に印象に残っているのは、鍋でのご飯の炊き方と味覇(ウェイパー)

の有用性だろうか。

畜産資源は、訪れるたびに少しずつ変化している。大学の研究室なのでメンバーは毎年少しずつ変わるし、それにつれて研究室内の机の配置が変わり(模様替え?)、果ては校舎の大改修ということで最近では研究室の位置まで変わっていた。さらにはヤギまで飼い出したらしい。自分が滞在していた頃の風景が変わっていくのは、正直少し寂しく感じられるが、一方で新鮮でもあり、感情は複雑である。

留学が終了してからは機会はどうしても限られてしまうが、年に何回かあるそんな畜産資源メンバーとの交流を私は楽しみにしている。それは、畜産資源のメンバー、特に学生と接していると、彼らのいい意味での若さとか、情熱とか夢といったものに触れられるからである。それらは自分が安定と引き替えに一部をどこかに置いてきたものであり、それに触れることで自分もエネルギーをもらい、またがんばろうかという気になる。

自分も、畜産資源のメンバーに対してなんらかの刺激を与えられていたら幸せである。

2006年1月 つくばにて
オギノアキフミ



研究紹介①～付属牧場試験レポート～

実験系の研究について紹介するシリーズ。今回は、B4椎野君のタケ飼料を用いた肉用肥育牛の飼養試験を紹介します。私がこの記事を書くために（本当は椎野君の手伝いのために）牧場を訪問したのは、冬真っ盛りの12月11日。朝の天候は霧でした。この時期はよく霧が発生するようで、昼には良いお天気でした。



椎野君の試験は、産業廃棄物として排出される未利用資源のタケを、肉用牛への飼料として給与する試験です。試験の期間は11月から12月。現在、椎野君は、熊谷先生や北川先生、技官さんの協力を仰ぎながら奮闘中です。サンプリングは3週間に1回、その期間中は寝る間も惜しんで（実際は寝る間がないで）、各種測定に大忙し。研究室に帰れば、飼料成分分析や、VFAの測定など、夜遅くまで分析を頑張っています。その他に、毎週月曜の餌つめなどがあり作業も盛りだくさんです。実験系以外の皆さんの協力も随時募集中ですので、折角の現場に触れ合えるチャンスを活用しましょう。



さらに、今年度はじめから熊谷先生が取り組んでいた、電気ショックを用いた個体管理システム（以下バランスシステム）もほぼ完成しました。繁殖牛舎内の2つの牛房に設置されたバランスシステムは、かなり良いできばえ。このシステムは、各飼槽に取り付けられたワク（写真では白い四角のワク）が、個体に取り付けられたチップの登録番号を読み取り、牛が自分の飼槽を間違えば、ワクに電気ショックが流れるようになっていきます。こうして、人が常時いなくても、おのおの牛が自分の飼槽にしか入らないよう管理できるのです。今後の、このシステムを用いた牧場での試験が楽しみです。



その他にも畜産資源では附属牧場と共同で、2005年度から牧草地と肉用牛の間を循環する栄養素量（窒素、リン、カリウム）の把握について研究を行っています。もととなるデータは、牧場の北川先生と技官の方々による記録とサンプリング、そして畜資の実験系学生によるサンプルの分析により得られています。日頃より、多大なる貢献をいただいている牧場の皆さんに改めて感謝です。

（田端）

忘年会

平成18年も押し迫った12月21日（木）、研究室の忘年会がありました。ちょうどこの日に博士論文申請発表会を終えられた研究室OBの荻野さんを交えての楽しい会になりました。廣岡先生の差し入れてくださった安愚楽牧場の高級お肉のすき焼きと、荻野さんの好物たこ焼きがこの日のメニューでした。久しぶりに



研究室を訪問された荻野さんと、いつものメンツの後半戦は延々と続いたとか…！

レニンさんへ吉報届く！

留学生のレニンさんの奥様(Liczaさん)が、JSPS 日本学術振興会より助成を受けて、外国人共同研究者(Kahiさんと同じポジション)として、京



都大学大学院へ戻ってこられることになりました。レニンさんはまた日本で一緒に生活ができるかとあって大喜び！よかったですね♪

リクサさんは、今年の4月ごろに息子のAndreちゃんと一緒に日本へ戻ってこられるそうです。

レストハウス山小屋

【福知山】

付属牧場から国道9号線を約km北上した国道沿いに、山小屋というレストランがあります。店の前に怪しげな案山子と眼鏡をかけた山羊がいるのですぐにわかります。中に入ってみると、入り口にはハイジグズが所狭しと並び、山羊好きなマスターの山羊トークが始まります。ここでは、山羊乳を使ったオリジナルのソフトクリームやケーキ、るり溪やぎ農園のチーズ、山羊鍋、山羊乳しゃぶしゃぶなども食べられます。一度覗いてみてはいかが？

Department of Animal Husbandry Resources, Kyoto University, Faculty of Agriculture, Oiwakekyo, Kitashirakawa, Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

<http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/>

GOAT BULLETIN



お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミは、
1月17日(水) 田端さん、塚原さん
1月24日(水) 年度末報告 西尾君・菊原君
1月31日(水) 修士論文発表会 上原さん
で、教室はN374の予定です。



『ヤギの友』

全国山羊ネットワーク(事務局:鹿児島市)から、会報『ヤギの友~Japan Goat Journal』が随時発行されています。この会報は、会員からの寄稿と全国山羊サミットの報告、飼育管理に関する情報などで構成されています。12月中旬、その第15号が届きました。そこには、昨年10月長野牧場での山羊人工授精講習会の模様を紹介した、私の投稿記事も掲載されています。来年のサミット情報や山羊好きさんたちの記事も満載です。興味のある方は、是非ご覧下さい。(塚原)

日本畜産学会報掲載情報

昨年11月末に発行された、日本畜産学会報の最新号に、当研究室から長命さん(D3)の「肥育農家の属性や意識が枝肉成績に及ぼす影響」と、田端さん(D1)の「肉牛肥育・水稲複合生産システムにおける農家レベルのリンの利用とリン循環」が掲載されました。

国際共同研究人材育成推進事業 (JIRCAS)

当研究室出身の山崎先輩がいらっしゃる独立行政法人国際農林水産業研究センター(JIRCAS)では、国際共同研究を担う若手研究者の育成事業を行っています。本年度は、8月~9月に募集がありました。海外での研究に興味のある方は、HPをご覧ください。<http://ss.jircas.affrc.go.jp/kenkyu/jinzai/index.html> なお、その他に、プロジェクトの一部では、ポスドクを期間を決めて採用し、現地でプロジェクトの一員として活動をしてもらうことがあるそうです。

12月の山羊の体重 山羊たちは生後10ヶ月。たぐいまる実験中です。

	12/10	12/15	12/22	12/28
①トン	40.6	40.4	40.2	40.4
②ナン	43.2	42.8	43.2	42.8
③シャー	39.6	39.8	40.0	39.8
④ペイ	46.0	46.4	46.6	45.2



代謝ゲージの中のシャーちゃん

新年会とご飯作り

1月第2週目に予定していた新年会ですが、風邪引きさん続出のため、中止になりました。体調管理は、まずバランスのよい食事からということで、時々5階でご飯を作っています。食生活に不安のある方は、どうぞ起こし下さい(いつまで続くか分かりませんが...)。これから益々忙しくなります。皆さん、季節柄健康管理にはくれぐれも気をつけてお過ごしください。

編集後記~明けましておめでとうございます~

例年にない暖冬の中、平成19年の幕が明けました。(と書いていたら大寒波が来ました)。昨年5月に当研究室にきた子山羊たちもすっかり大人になり、立派に実験動物としての役割を果たしています。山羊導入と同時に始まったこのGoat Bulletinも、皆様のご協力のお陰をもちまして、平成19年新春号を迎えることができました。今年も研究室の情報共有と広報の場として、ささやかながら続けられたらいいなと思っています。皆様からの投稿や新企画のアイディアなどもどんどん募集しています。どうぞご協力の程、よろしくお願いいたします。

また2月上旬には、長野牧場から新たに2頭の去勢山羊君たちがメンバーに加わる予定です。今年も山羊たちが皆健康で仲良くできるように祈っています…(ようこ)



京丹波町の琴滝『冬蛸』会場のイルミネーション

ニュース東西南北

『珍しい牛の四つ子が誕生』

北海道石狩市の牧場で、牛の四つ子が誕生した。ホルスタインと和牛のF1で、誕生時の体重は20kg弱だった。生産者の盛重さんによると「出産予定日までまだ半月もあるのにずいぶんお腹が大きかった。夕方に牛舎の見回りをしていた時、一頭目が生まれていることを確認。しかし親牛の様子がおかしいことに気付き、子宮の中にまだ数頭いることを発見。獣医師を呼び、難産の末、全ての子牛を取り上げた。年間100頭に種付けしているが、双子でも年5、6回あれば多い方。四つ子が全て無事に生まれたなんて聞いたことがない」と、嬉しそうに話した。(日本農業新聞より抜粋)